

発表資料作成 POINT

実験系研究の場合



Contents

- スライドの構成
- タイトルのポイントについて
- はじめに
- 研究デザインについて
- 研究デザインの検討のポイント
- PICO/PECOの考え方
- 介入方法の紹介
- 結果
- 考察
- まとめ

01

スライドの構成

01

タイトル

02

利益相反 (COI)
の開示

03

目的

04

方法

05

結果

06

考察

07

まとめ

02

タイトルのポイントについて

記載例

腰椎椎体圧迫骨折患者における 在院日数長期化因子の検討

01

内容を明確かつ簡潔に表現する

02

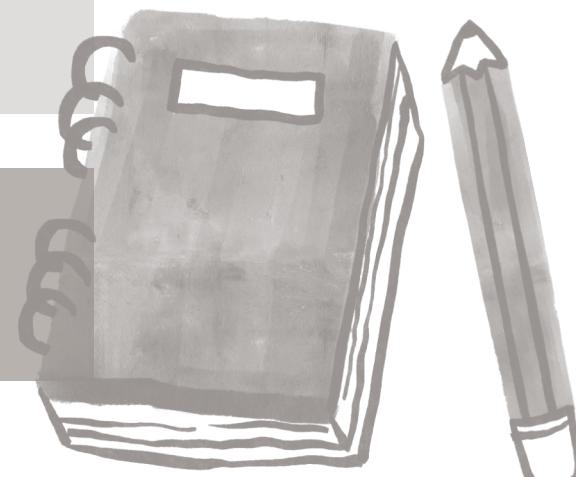
長くなる場合は副題を使用

03

抽象的なものは避ける

04

「内容を想起できるような演題名にすることが重要」



03

はじめに

字の大きさ：最低24ポイント
理想28~32ポイント
タイトルや表題はそれより大きく

01

介入の中で
何が課題？

02

先行研究や
通常の経過と比較

03

背景を明確にして
聴取者がイメージしやすく

04

症例検討の目的
を明確に！

05

何を検討したいのか？

06

どんなことを
明らかにしたい？

記載例

はじめに

この研究の背景と現状の課題

- 理学療法学科の学生の就職先の選択条件に関する調査・研究は、2000年代に多く実施された
- 社会的価値や学生の資質、社会情勢も大きく変化しており、就職先を決定する際に重要視する因子も当時の対象者とは変化していると考えた

研究の目的

- 本研究は、理学療法学科学生の就職先選択条件に関する調査を行い、近年の学生の就職先の選定条件や入職後の希望勤続年数について明らかにすることを目的とした

04

研究デザインについて

※この段階で、研究の限界について検討しておくとよい

01

「はじめに」で記載した内容を、どの研究デザインにて研究を行うかを決める

02

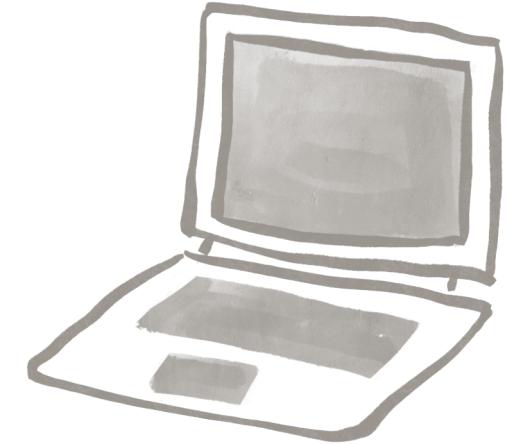
バイアスなどの問題やリサーチしたい内容がどのデザインだと明らかにできるかを検討していく事がポイントになる

03

研究の意義を受け、今回「明らかにする」もしくは「報告する」目的を端的に整理する

05

研究デザインの検討のポイント



01

Feasible

実現可能性

規模が適切か

04

Ethical

倫理性

02

Interesting

みんなが興味がある

05

Relevant

必要性

03

Novel

新規性・新知見、

過去の知見の発展や否定

全てを満たす必要は無いが
5つの視点を踏まえておくとよい

05

研究デザインの検討のポイント

01

Specific

具体的である

02

Measurable

成果が計測可能である

03

Achievable

達成可能

04

Realistic

現実的である

05

Time-bound

いつまで行うか明確



06

PICO/PECOの考え方

臨床疑問を整理する際に、PICOやPECOを用いて定式化する事が勧められる

P Patient (患者) またはParticipants (参加者)

I Intervention (介入) / E Exposure (要因)

C Comparison (比較)

O Outcome (結果) の視点で考えていくとよい

記載例

PICO	実際例
P : どのような患者に	左麻痺があり、Pusherにより座位が不安定な患者
I : どのような介入を行ったのか	鏡を使用して、患者を中心の位置を確認するよう促しながら練習を行った
C : 何と比較して（他の介入を行った場合と行わなかった場合）	鏡を使用したケースと起き上がりの動作練習を併用したケースの比較
O : どのような結果になったか	起き上がりの練習を併用したほうが、その後の安定性に違いが見られた。併用したほうが高い効果が得られる

07

①研究方法の説明

聴衆が研究の再現性や信頼性を判断できるよう、詳細を適切に記載しましょう

01 研究デザイン

研究の種類

(例: 観察研究、ランダム化比較試験、
コホート研究 など)

研究のフレームワーク

(例: 単施設 or 多施設、
前向き or 後ろ向き)

02 研究対象（参加者）

対象集団の定義

(例: ○○疾患の患者、健康成人、特定の年齢層)

選択基準 (Inclusion Criteria)

(例: 診断基準を満たす、特定の治療を受けている)

除外基準 (Exclusion Criteria)

(例: 併存疾患がある、過去○年以内に類似治療を受けた)

サンプルサイズの決定方法

(統計的検出力の設定、過去研究の参照)

07

②研究方法の説明

01 介入 (Intervention)

介入群と対照群の設定

(例: 新規治療 vs. 標準治療)

治療または介入のプロトコル

(例: 理学療法プログラム、
運動量・時間など)

02 測定 (Measurement)

主要評価項目 (Primary Outcome)

(例: 血圧変化、自宅退院、歩行速度など)

副次評価項目 (Secondary Outcome)

(例: 副作用、QOLの変化)

測定方法

(例: カルテ情報、評価手法、アンケート等)

07

③研究方法の説明

01 データ収集

収集方法

(例: 電子カルテ、アンケート)

フォローアップ期間

(例: 6ヶ月、1年間)

02 統計解析

解析手法

例)

記述統計 (平均値、標準偏差、中央値など)

群間比較 (t検定、カイ二乗検定、分散分析など)

回帰分析 (ロジスティック回帰、
Cox比例ハザードモデルなど)、

重比較補正 (Bonferroni補正、FDR補正など)

欠測値処理 (リストワイズ除外、多重補完法など)

08

結果

研究の主要な結果を視覚的に示します。データをわかりやすく提示することが重要です。

記載するポイント

01 主要な結果（統計解析の結果）

02 グラフや表の活用（適切な図・表を用いる）

03 統計的有意性（信頼区間、P値など）

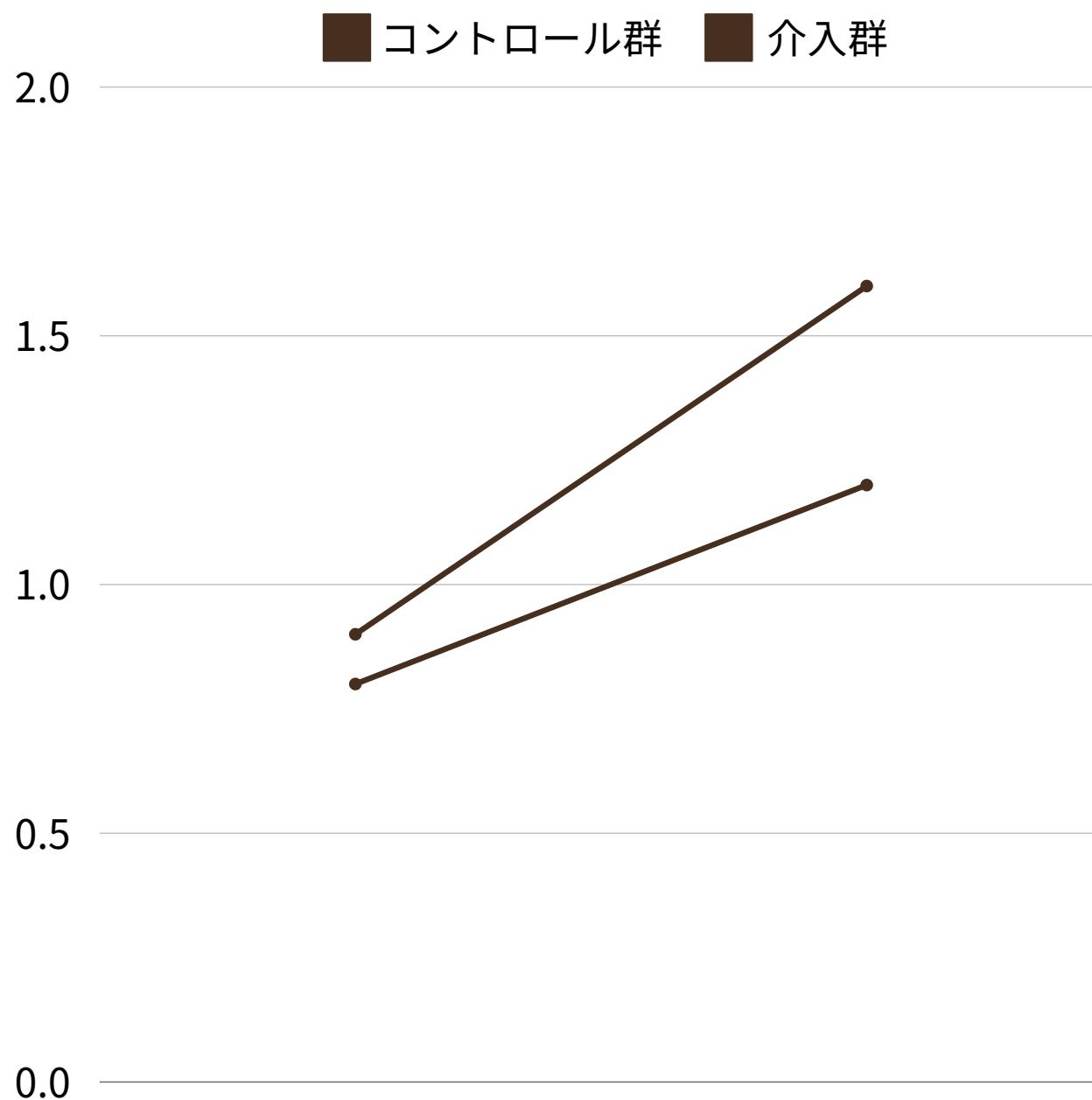
04 主要な比較結果（介入群と対照群の比較）

可能な限りシンプルにまとめ、視覚的に伝わりやすいスライドを作成しましょう。

②グラフや表の活用

適した表現方法を考えましょう

図：歩行速度の変化



表：歩行速度の変化

	介入前	介入後	差	95% CI
介入群	0.9	1.6	0.7	0.7-0.9
コントロール群	0.8	1.2	0.4	0.3-0.5

主要な結果の要約

本研究では、歩行トレーニングが歩行速度の改善に有意な効果を示した。

先行研究との比較

本研究の結果は、○○ら（20XX）の研究と一致しており、歩行トレーニングが高齢者の歩行機能を改善する可能性を示唆する。

臨床的意義

歩行速度の改善は転倒リスクの低減につながる可能性があり、リハビリテーションプログラムへの導入が推奨される。

研究の限界

本研究は単施設で実施され、対象者数が限られていたため、一般化には注意が必要である。

今後の課題

今後は多施設研究や長期フォローアップを行い、介入の持続的な効果を検討する必要がある。

10

まとめ

01

今回の発表を端的に
まとめて
今後の課題なども
提示を行なう

02

この中で
研究の限界にも
触れられると
なお良い

03

対照群の数や
研究手法などを
踏まえて
研究限界を検討する

LET'S
HAVE
FUN!